

日本コトバの会60周年  
表現よみフェスティバル 2013  
ドラマよみの力を記号づけで磨く！

声の表現力を高めよう！

「音読」が脳のはたらきを活性化すること、黙読にはない作品の味わいがあることは、常識になりつつあります。しかし、文学作品のよみ方についての議論はまだまだこれから深めなければなりません。

当会では1956(昭和31)年から「表現よみ」という名称で文学作品(おもに小説)の音声表現の研究をつづけてきました。1994年からは全国に呼びかけて「表現よみコンテスト」を開催し、2000年まで通算7回を重ね、2001年からはより広い分野の方がたが参加できる「表現よみフェスティバル」としました。

今回は3部構成です。第1部は、公募によるドラマよみの発表、朗読劇や放送劇などのグループ発表です。第2部は、最年少美人活弁士—無声映画の解説をしている麻生子八咫(あそう・こやた)さんの活弁パフォーマンス。第3部は「記号づけ」によるドラマよみのグループ学習です。

「記号づけ」は、表現よみ上達に欠かすことのできない方法です。表現よみで脳のあらゆる部分が活性化されますから、表現よみ上達を通してコトバの総合的な力が高められます。参加者全員にグループでの「記号づけ」のあとには、参加者のよみの発表もあります。わかりやすく楽しく学べます。みなさま大ぜいお誘いあわせのうえ、おいでになり、お楽しみください。

実行委員長 下川 浩

プログラム

あいさつ 会長 下川 浩

- 1 組みよみによるドラマよみの発表会  
——グループのドラマよみや放送劇など——
- 2 活弁パフォーマンス活弁士=麻生子八咫(こやた)  
——活弁の語りと実習を楽しみましょう——
- 3 ドラマの記号づけによるグループ実習  
——「記号づけ」解説=渡辺知明——

\*

- とき：2013年12月7日(土)午後1時～5時
- ところ：獨協大学/6-101教室  
(東武スカイツリーライン松原団地駅・下車10分)
- 資料代：500円(学割300円)

【ドラマよみグループ募集】

- (1) 文学作品を3人以上で分担した10分以内の読み
- (2) 予備審査=録音ファイル(メール添付可)、CD・カセットテープ(郵送)いずれかで録音を事務局へ送付、
- (3) 申込〆切11月20日(水)必着
- (4) 応募料/参加料は無料

※お問い合わせは、下記の日本コトバの会事務局に。

◎台本の例「猫の事務所」

N1 たとえば、ある日となりの虎猫が、ひるのべんとうを、机の上に出してたべはじめようとしたときに、急に大きなあくびをやりました。すると、足をふんばったためにテーブルが少し坂になって、べんとうばこがするすると滑って、事務長の前の床に落ちてしまったのです。

N2 そこで虎猫は机の上から手をのばして、取ろうとしましたが、べんとうばこは、あっちへ行ったりこっちへ寄ったり、なかなかうまくつかまりませんでした。

事務長 君、だめだよ。とどかないよ。

N1 事務長の黒猫が、もしやもしやパンを喰べながら笑って云いました。その時、四番書記のかま猫も、すばやく立って、弁当を拾って虎猫に渡そうとしました。ところが虎猫は急にひどく怒り出しました。

虎猫 何だい。君は僕にこの弁当を喰べろというのかい。机か

ら床の上へ落ちた弁当を君は僕に喰えというのかい。

かま猫 いいえ、あなたが拾おうとなさるもんですから、拾ってあげただけでございます。

虎猫 いつ僕が拾おうとしたんだ。うん。僕はただそれが事務長さんの前に落ちてあんまり失礼なもんだから、僕の机の下へ押し込もうと思ったんだ。

かま猫 そうですか。私はまた、あんまり弁当があっちこっち動くもんですから……。

虎猫 何だと失敬な。決闘を……。

事務長 (虎猫のこぼばをさえぎるように) ジャラジャラジャラジャラン。いや、喧嘩するのはよしたまえ。かま猫君も虎猫君に喰べさせようというんで拾ったんじゃないやな。それから今朝、言うのを忘れたが虎猫君は月給が十銭あがったよ。

N2 虎猫は、はじめは恐い顔をしてそれでも頭を下げて聴いていましたが、よろこんで笑い出しました。

日本コトバの会事務局

〒141-0022 東京都品川区東五反田2-15-6-515

電話&FAX. 03-3445-6499

Webページ <http://www.ne.jp/asahi/kotoba/tomo/>